



水とともに、須原

す は ら

琵琶湖岸の須原集落

琵琶湖の東岸に位置する「野洲市須原」。昔の写真にはたくさんの水路が写っています。もちろんこれらの水路は、今は道路になっていますが、昔はこのようなクリーク地帯でした。須原の人は、農作業をしに田んぼへ行くときも、収穫したお米を運ぶときも、「田舟」という舟を使っていました。

これは琵琶湖岸の特有の、水を生かした暮らし方です。



魚つかみができた田んぼ?!

子どもたちは学校から帰ってきたら田んぼに「魚つかみ」に行ったそうです。なぜ田んぼに魚がいるのでしょうか。

昔の田んぼは、水路の水が高く梅雨などで雨がずっと続くと水路があふれて、田んぼが琵琶湖とつながったようになりました。水があふれる田での農作業は大変でしたが、琵琶湖から水路を通して、たくさんの魚が入って来ていました。

琵琶湖に生息しているフナやナマズやコイは、浅瀬で卵を産む習性があります。岸辺のヨシ帯の他、琵琶湖とつながった田んぼは絶好の産卵場所だったのです。子どもたちは、田んぼでの魚つかみを楽しみ、夕飯の「おかず」にもなりました。

琵琶湖の魚はとても身近な存在でした。